

庄内産直センター農民と園児たちが稲刈り交流 本間薦さん(長沼)の田んぼで

鶴岡市農林水産部長が歓迎挨拶

「生命の源にふれる旅」と命名したこの交流会は17年になります。園児たちが給食しているコメ(庄内産直センター供給)は「生命の源」であることを、春の田植と秋の稲刈りを通して園児なりに知ってもらおうと、横浜の保育園と庄内産直センターが共同で始めたものです。

人の園児たちは、13時、職員・保護者と一緒に長沼地区地域活動センターに到着。佐藤毅農林水産部長が歓迎挨拶、農民と園児がペアで対面しながら「刈り上げ餅」で昼食しました。近くの本間さんの田んぼに移動し稲刈りです。

にし、田植と稲刈りを園児が連動感できるようにしました。稲刈りにペアで鳥海山をバックに記念撮影、稲刈りよりいなごや蛙とりに夢中の子もいてテンヤワンヤでした。長沼温泉ぼっぱの湯で疲れを癒し、宿泊先の添川改善センターに向かいました。

お母さんたちも「母さんの味」提供

夜は園児はじめ、職員・保護者・農民の歌や踊りでの大交流です。うたの小父さんでお馴染みになった小野寺裕さん(大川渡)のギタールで盛り上がりました。

園児をワンツウマ ンで指導

9月27日(土)朝5時大型バスで出発した24

今年も、園児が田植した区域に園児の名札を立てそこを刈ること

園側と産直センターの反省会から生まれたものです。



本間薦さん(長沼)とペアの園児



好天のもとで園児たちと稲刈り(長沼・下通)

鶴岡市文化会館改築工事の入札のこれまでの経過

2012年3月	整備基本計画を決定。現在地に改築。本体工事費は40億円。総事業費45億円
2012年8月6日	設計業者は公募型プロポーザルで選定された妹島(せじま)和世建築設計事務所を代表とする妹島・新穂・石川共同体と委託契約を締結
2013年5月30日	基本設計を市議会全員協議会に説明。2016年8月完成めざす
2013年10月13日	市長・市議会議員選挙
2013年12月21日	12月議会。本体工事費は当初見込み40億円の3割増の53億円可決
2014年1月	実施設計公表
2014年2月	旧施設の解体着手 1億4126万円 三浦土建
2014年3月6日	1度目入札不調。3JV全て辞退。業者によれば本体工事費で「13億円足りない」
2014年4月22日	市議会全員協議会。本体工事費を53億円から6億円増額し59億円とする説明
2014年4月25日	臨時議会。本体工事59億円、事業費総額65億8500万円可決。大手業者発注を示唆
2014年5月29日	2度目入札。県外大手ゼネコンに枠を広げるも、20日まで入札参加申し込みなく不調
2014年6月25日	3度目入札。資材や仕様を見直し、工期を16年8月から17年3月まで延長。発注枠を地元業者に戻すが、2JVとも辞退し不調。業者「8億円以上足りない」
2014年7月9日	地元業者が設計の特殊さを理由に技術上の問題で、市長に工事参加拒否を申し入れ
2014年8月22日	臨時議会。本体工事費を一気に19億9千万円増額し78億9千万円を可決。工事関係事業費85億7400万円。工期を当初から1年延長し2017年8月完成。大手ゼネコンに発注。共産党市議団は反対
2014年9月30日	4度目入札。大手ゼネコンの竹中工務店と地元の菅原建設、鈴木工務店のJVが予定価格73億204万円とほぼ同額の73億円で落札。参加は1JVのみ

お母さんたちも数年前から「母さんの味」を提供することにしました。「食はいのち」と銘打つ夕食の献立は、なるべく地元産を使い、マコモダケとベーコンとチンゲン菜の炒めもの・からどりと菊のごま和え・チジミ・幸水・ご飯(新米ササニシキ)・からどりの味の噌汁でした。

「田んぼに水があるのはなぜですか」 高まる園児の質問

園児たちから事前に寄せられる質問も年々程度が高くなり、「田植の時は青かった稲が黄色くなるのはなぜですか」「僕たちが食べているお米の種はなんですか」「田んぼに水がある

市文化会館4度目落札30日に4度目の入札があこなわれ、大手ゼネコンの竹中工務店と地元の菅原建設(馬町)、鈴木工務店(大山)の3社による建設共同企業体(JV)が落札。参加は1JVのみで、本体工事費が当初の40億円から78億9千万円に、一年半で倍に膨らむ建設バブルの最中の工事となります。

のはなぜですか」などでした。(青山)

米作って1文も使えない その立場にある者は気概込めよ

元藤島町議会議長 太田榮市氏語る

旧藤島町議会の元議長である太田榮市氏（藤岡）に、米価下落の問題と、鶴岡市議会での「過剰米処理を求める」請願が不採択になった問題でお話を聞きました。



太田榮市さん

誰の立場に立っているのか

世の中が狂ってきた。鶴岡市議会が請願を不採択にして、農民の民意に背くとは。他の議会や知事会などは民意を議決し意見を言っているではないか。

鶴岡市議会はどうしてそうなのか。

根本は誰の立場に立っているのが問題だ。われわれは農業の近代化にも減反政策にも政府の言うことに協力してやってきた。その結果が今なのだ。

農民の今の苦しみの立場に立って発言してもらわなければ困る。

農協は運動体であり理事は執行者

農協の座談会でも発言したが、われわれが小言を言っても通らない。

組合員である農家が四苦八苦しているのに、米を作っても生活費に1文も使えない状態になっているのに、農協

は、発言や行動が厳しく問われるのだ。農民の立場に立ってもつと行動して貰わなければ困るのだ。

楔形の「一」

役員は何をやっているのか。自ら身を削る気概もなければダメではないか。

今は農協が組合員と離れてしまっている。農協は昔と違ってしまつた。普段、意見を言う場もなければ、お茶を飲む場もない。

だから農協の理事はもつと組合員と接触する機会が無ければダメだと言いたい。

農協は運動体なのだ。理事は農協の執行者なのだから、農家ともつと話し合い、先頭に立って運動するべきなのだ。

議会議員も農協理事も、その地位にある者



楔形の「一」に気概を込めた篆刻「百姓一揆」

合併で傷んだ町と住民をさらに切り捨てる

言葉とは大違いの「地方創生」①
—「しんぶん赤旗」を読んで 青山 崇

しんぶん赤旗9月22日付、「まち・ひと・しごと創生本部事務局」を掲げる安倍・石破の両氏の写真、目玉だと

石破氏を創生担当相にした。これまでも「地方の時代」と飽き飽きするほど聞かされ、本当に地方が創生するの

切り捨てさらに進む危険



しんぶん赤旗9月22日付

か眉唾物（まゆつばも）のである。

増田元総務相が地方創生をまとめた報告書は人ごとのようなことを述べている。896の市町村が消滅、秋田県で残るのは1村だけ、中小市町村はいらない、結論は「選択と集中」である。これを受け安倍内閣は、市町村を「集約とネットワーク」で再編するとし、公共施設やサービスは都市部に集約して「コンパクトシティ」をつくり、周辺地域や中小市町村



政党とはなんぞや

政党とは、政治上の主義の同じ者の団結（実用新辞典）とある。

▼今、政党はナンボあるのか。野党、つまり政権についていない党が8つあるそう。俺は言えないがあなたはナンボ数えられるかな。

▼先日合併した党があったでしょ。その前と同じように代表は2人つまり頭が2つなのだ。本当に同じ方向を向いているのか、なんて俺が心配することもないんだが、かつての片方、太陽の党は欠けたのではと思いきや名前を引き継ぐという者が出てきたとか。

▼どっちにしても頭が多くてはネー。昔から船頭多くして舟、山に登ると日本では言ってきたんだから。

▼ところが頭1つでも、俺が創った党は保守を再編成するために立ち上げたんだと、8億

は道路などのネットワークで結ばばよいという。さらに東京・名古屋・大阪の3大都市を、スーパードメジャーゾーンの名で一つの圏域にして世界からヒト・モノ・カネを集めるというのだ。この市町村の「集約とネットワーク」による傷みは、私たちはすでに合併で味わっている。この合併を押しつけたのは小泉内閣で、その官房長官を務めたのが安倍首相である。（つづく）

円借金の人はイキマイテいるが、仲間である彼等は、俺達は野党を再編するんだと、まるつきり逆の話なんだヨ。▼これでも政党なんだ。恥ずかしくないのかネー。それでも政党助成金を貰っているんだ。サギになりませんか。

▼こんな方々でも、自民党対日本共産党ナンテいう選挙になれば、間違いない自民党にくからネー。国政でこんな政党を支持してきた人達には、これでいいんですかと言いたい。

▼与党になれない政治方向だから別の党を組んでいながら、中間政党と言われる政党は結局、自民党を助ける役目をしているのでは。

▼そんな眼で見ると沖繩知事選挙。最後は支持者をウラギツタ現知事。これに対するオキナ候補の票を減らすための立候補に思えてならないのですがネー。

（石川）